

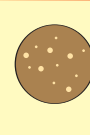
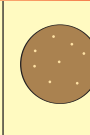
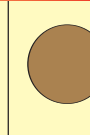


### 3) マツ材線虫病の診断

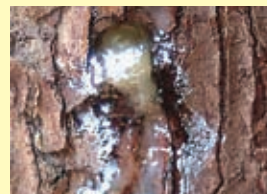
マツ材線虫病にかかったマツは、樹脂（松やに）がほとんど出ないか、まったく出ません。これはマツノザイセンチュウが樹脂の通り道の柔らかい細胞をこわしてしまい、樹脂が流れなくなるためです。この症状はマツが完全に枯れる前から現れるので、樹脂の流れ出る量を確認すれば、病気にかかっているかどうかが確実にわかります。その方法は、マツの幹に直径1.5cmほどで樹皮を切り取る程度の深さの穴をあけ、その穴から流れ出る樹脂の量によって判断します。健康なマツでは1時間ほどで樹脂が流れ出てきます。しかし、病気にかかっているマツはまったく出ないか、出ても少しにじんでくる程度です。その目安は図4-1を参考とします。冬の時期は樹脂の出が悪いので、診断

図4-1 樹脂の出方による診断 (小田氏より・一部改変)

異常なし		異常あり		
				
樹脂がたまり時間がたつと流れ出る。	左よりやや少ないと思われるもの。	部分的に粒状に出る程度。	微粒が若干あり、ねばり気があるもの。	ねばり気がなく乾燥ざみ。



樹脂が溜まっている状況図

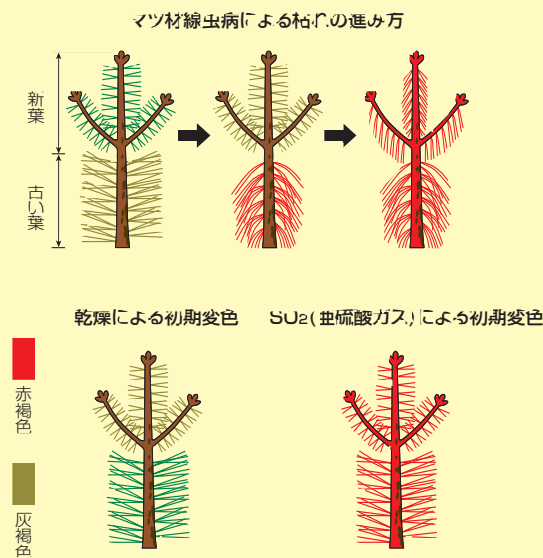


樹脂が流れ下った状況図

は春から秋に行います。

マツ材線虫病では、葉の枯れ方にも特徴があります。葉の変化は早いものではマツノザイセンチュウの侵入後1ヶ月ごろから始まります。はじめ古い葉（2～3年生の葉）に変色やしおれがあらわれ、その後今年伸びた新しい葉へと進みます。新葉は赤褐色に変わり、その後色が薄れて落葉します。葉の色の変化は、乾燥害などによっても起こります。これらの目安は図4-2を参考とします。

図4-2 葉の枯れ方による診断



注 いずれも苗木を使った実験によるもので、すべてがこのような変化するとは限らない。(原図 小・林、中・原 一部改変)